

虛實情狀夜機



2132
27



虚實情夜櫻

うそとまじりあそびけのよがさう
 心こころのよあがざれんはるまじる
 見みゆゆぎぎ喰くへへとと色いろ甚あま味あじいいを
 知しぶぶととハま實まことありうを遊あそ女よめに
 うう法はのの後のちぬぬらすらす杜いと人ひとハま己おの色いろ



か 更食を忘れ思ふ 都座
の 獨つて夜に 神く 夜
を くらふ夕を 朝 時よ
下を みる けり なる けり
高き 石の けり なる けり

魚道へ 踏込て 批燈を くら
や くら なる けり なる けり
て 肉の けり なる けり
ふる べし なる けり なる けり
を 知ら なる けり なる けり

りもな^{まへ}し^{つら}亦通^{うら}はざれ^たば^いき^だ究^{あま}
 を知^しず^ら故^こは^ら虚^{うそ}を^を實^{まこと}と^と類^たせ^い
 こと^{こと}く^くぬ^ぬが^がち^ちの^のま^まら^らち^ち也^や也^や也^や
 さん^{さん}お^おた^たん^んの^のま^まを^をと^と類^たせ^い
 赤^{あか}め^めて^てお^お知^しひ^ひあ^あん^んま^まと^とは^はめ^め

ア人すよといふこ

時申をい喜

月もあ哉

膝よんや川

美の雲

梅松亭

庭鴛





よい 月夜虚言

夜半の虚言
武蔵守が格子の換箱
うらまなふも未路が
おがるくんの来るがどハ
白やと見る。

うらまなふも未路が
虚の夜櫻

よ ありまよと 夜半の虚言

たましあふせと福の極
とあり夜半の虚言の極
板島をまよと断が
あーさ人のつるぞとハ
おをよと見る。

まよとよと
實の夜櫻

らサ なさサ 乃乃情言

逢て別り人月の園日
あまよまよは方の換箱
教のまよである武蔵守
うらまなふも未路がどハ
白やと見る。

あまよまよは方の換箱
情の夜櫻

虚實情夜櫻

二月の虚言

庭我馬込

行春乃山入て花をえまつる
ひれそれハ我路これ又東よる
名沙りななくハアヤア 庭我馬込を
下女 モシ且明さんへ今 銀蝶さんがいらつ
いままよして糸は待まきりてしらつ
やいまは 言ハ希 ナニ銀蝶が来ととろをやく

いままよして糸は待まきりてしらつ
やいまは 言ハ希 ナニ銀蝶が来ととろをやく

おつちへあぐれと云てらつちやそして茶を
 持て来いませう用がめる火も消てしまつ
 たおよく持て来い女ト云つてありをいく入らつて
 言さんけつるイヤモウたゞ碎て肉までむち
 うらうくでうへの子おちまはやく
 へぞうぞうト云つたりヤれおちるをさるはうち女は茶
 を持てお銀燻がーヤれよつちくみてやさ
 いごー茶えんの茶ををらうくとこわー茶を赤くして
 ちやぞうぞうと云つたりやそのやいで
 女 ちんくくト云つたりやを笑いかがり燻なの故てト

けぶうの子此鼻をうむと、はようやどあたらい
 女 ヲヤかまいと云に ト云つてのさへふげおむは四言以帝
 まいハ化むくなりうはは孫づと云つたりや二まいむも
 よて母をたもちをはさすまの二まいうら付おむりハア
 りんめ小紋おさがりみドくけぬき合せめ思ううらよさら
 一の足袋をささるのト云
 言 サアいつく 燻 ちんち
 言 ニア肉トヤア
 言 ちつとーげんくそくえんなく 燻 ちんち
 言 一とら義経ハ虎ををりよつて欠落どらう

言 コレサ 親おびと 知とこアいうら見はけられ
 福へうちをやくおつけよふ おしも親おボラ
 くく 上くのやい 且ねおうごいめーませんく
 おやをくめーつまよーふ 友人の足がやよめさ
 ライ加馬 ライくくー 友ど名はあふ日本橋
 西よ形城高くこーて夕や辰たおむさ東
 入海満ここーて白鳥の母らきーとく
 ども空をうらむるまをやくより遠お人ハ

三拾八の格乃齒をむくよこ事あらうん。
 市仲北青ハ板其音のうへおどり 妙定の
 舟のまらびハあまれ古きよ踏つぶされ
 腹のさきらうさふでうちハ屋といえせの
 ぶあけよあうつる鼻をさくまこむ
 二人が足のおやこらみ 二十四時のむさやく
 の也ー おしも向ふよりむくをうらぎ西尺わどの刀とさー
 トに誇ちうらんをさくよま黄八丈のあつぎいま
 りちらんゆさけよよこーかー黄ーまよ一日照けら

きて目をかり 泣く事よおはわらう代 死者の眼み 千里も
 わらん 遠まわりの 勤番乃お人も又へう 御らまはけ
 二人と見え 知らぬ 言 マイしく さいんどやア福へ
 ありまてり なるを 六 せつうく 迎あせれとありつ されたいふ
 おふらう ともあさ せうらた 蝶 あめく なせ
 せん なるに けきあい 今 物くら おめくの所
 へ七夜 態 望く 之夜 あさご 梅 八月 集 七
 じやア 福へ ぐ 思くの 裏が 百く せまら けさ ー ー ー
 かんらん しまく であ ー かり 福へ 大き しま ー ー

ともるに 日 暮 ち 北 国 へ あり 六
 侍り 里よ 二ア ともあり できらに 祈事 六
 すん なるら いら ぬ ー を いて ぐら ー ー ー
 下 いう 蝶 あに 이드ん ー ー ー ー ー
 ぐ 雑子 ぐ なく ざら ー 言 モウ 沃山 ぎよ
 六 さん ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
 の よろ なる ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
 集 六 ぎよ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー

兄よぶがうらうちりのまけをくましく。ふ
一庵んさくして孫言ナアニまうのまさうく
いのりさまうつちが花こは婦ゆ女ま節まがま女ま
町まさよーうへも花所の客を武彦ま
と云女よまうゆけでとらまきこのま。
そあで今いむさー我のあうへうあまと
忠いおせくこ女所まもかやううく。あうん
でいるあまきども。ごまよーううがま

ううぜんてへ肉がまのうのさうんむまー
おまがやまごでもあううう。ううちやつて
おいらやアぜんてへはまら孫入のさ六をこ
下おいらがまいまいをうつて。そまー
く花所と色るまをううとまのんどの
言うめへいまいごうく六着い尾いよくいさや
おあぐみま様ナニいくのさあいなわ
りうむまい村のまづらあまーとらふ

大士のさふりあいらのさうなりのいさ
 あんららーまづさふ事ハあまていら
 とな言それまてまづつ六あんと
 てもさふさくふり幕ハはらこれふ
 のも又男の役だと思ふがさのくる
 一は孫一のさトはよまうせりわどよもやを戦
 てまうとたうり地回よくまを
 馬よりさくりわどよもや目がげこよさーころをまては
 こちこころく面白さーとさあれどむねをいそぐ也
 ようや
 六おめきをちやアちつと友お侍て飛く

くんお考浪之谷ままでいつて来るころ
 なるよよ六着物のさふさきりの
 是い身寄へ着物を
 あづけ香もく人
 六あ、さねお待どふまち 六さぶめい
 こくハ六あんよみんなんよろしくと云や
 一さうけどあこもけごろはさつなうりらつ
 一やりませぬと云てつつけをしておいらは
 ありをえてあからさふを吐したらき
 こやノ面白くさうさ笑ていさうさ

さ[置]は係切しんせつであつてもまはれ孫ざんと言いさん言いち
サ嬢ぢやうさんのよろな。あんせりな人があつら
ちや。廓くわくお月の東よハ孫ざんといふものゝあん
まのり人こらハ笑わらこれ終はつへまめへの鼻はなろつと
柄ぐらのまみよごごらけでイサちつとま
をやくおちあよう[置]さようからあうく
まに[孫]をんあらお置おきさんけつるよトおりこ人
をこれ衣いも左ひだりりも去いとん久く人間にんげんらつとみ十年

をこまよくらさばめんきんの愛あひよらもまを
西にしふうらんとうれおくあよりあちいらん免めん
ユウく六むさん今のが々え交あ法はふ者ものへ頼たのとあげ
たよとねひうの六むツワサまご創つくあめめさ北
おいらと横よこ目でえこりつごごうだ嬢ぢやうる
いら男おとこがどうもうるせへんごよ[孫]ナアニお
めへのありがあうーいらえて笑わらつていら
のさだまきぐえても。急いそぎ松まつまへのお方かたと不

きやア兄へ祈^スものを^ス敬^ス次第もよろあど。
でたごせト^ス知^スははれて又^ス天人のあまやうた
ひよとくお遠^スれ^ス命^スをみごごさび。あどかく
かいらんあれは^スあ^ス宗^スをか^スゆら^ス祈^スあ^スま
らよ^ス繁^スあ^スり^スま^スい^スん^スあ^スい^スん^スい^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス
子よ^ス客^スを^スお^スく^ス亮^スあ^スま^スい^スる^スあ^スり^スま^スい^スん^スあ^スい^スん^スい^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス
ま^スい^スん^スあ^スい^スん^スい^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス
どうの^スあ^スう^ス—先^スに^スま^スい^スん^スあ^スい^スん^スい^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス
燦い^スん

く—あ^スの^ス祈^ス遠^スは^スま^スい^スん^スあ^スい^スん^スい^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス
く^スを^スら^スう^スあ^スな^スあ^スど^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス
燦あ^スい^スん^スあ^スい^スん^スい^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス
ら^スほ^スう^スい^スま^スい^スん^スあ^スい^スん^スい^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス
—ち^スも^ス祈^スん^スあ^スい^スん^スあ^スい^スん^スい^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス
い^スぬ^スい^スあ^スい^スん^スあ^スい^スん^スい^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス
と^スな^スの^スう^スあ^スう^スら^スう^スの^スあ^スう^スけ^ス角^スも^ス祈^スま^ス
の^スい^スま^スい^スん^スあ^スい^スん^スい^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス
い^スず^スの^スあ^スら^スう^スい^スま^スい^スん^スあ^スい^スん^スい^スの^スづ^スら^スう^ス。檜^ス

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

トまじく〜
お嬢ーヤッ

うアさいまー。あちらにわさかんところら

ございほすうら [ち] ういありほ。

ハコいあーのりのハアくあづあるとまこ中ん

るやうらけえくまきまうらうがアくあはま

ーつらうアくあつけくおく [言] よらー

ございます。おあずらりやまーれサアよく

おあぐんをさいまー

らとあぐんをさいまー

りくるおあぐんをさいまー

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

トまじく〜
お嬢ーヤッ

うアさいまー。あちらにわさかんところら

ございほすうら [ち] ういありほ。

ハコいあーのりのハアくあづあるとまこ中ん

るやうらけえくまきまうらうがアくあはま

ーつらうアくあつけくおく [言] よらー

ございます。おあずらりやまーれサアよく

おあぐんをさいまー

らとあぐんをさいまー

りくるおあぐんをさいまー

よふいらつーやひましく 内田言次郎ハ **言** コウ

伊八とんちよろと来たな ト志がくそまた又を後

そくとうねと **花** とあこむより おおあんーと

言さんけるぬーはおせーやいーと そひ 中

まうちまぐらろぶがまーいーたまふいつと

こまがめめくあるんせん トこふすハ花弁のゆせ

りーちハ本 **武** **東** あつまハ浪蝶ハこの **話** ことと

ちのこもふお出あんーと 蝶さんけるのりのを

ごうあんーた ト知いハ **蝶** がら云 蝶 ごう するののら まも

まふらろへ入て いれ さい さい やアー は

話 そく てる つ あんす もつ

おいでなんーと **蝶** ごう こい ま おり ハ

久男がする ま だ ら **蝶** と 梳 ど

話 お ぶ ー ま あんす な 今 に あつて は

らうで お び よ 久 男 と ハ あん の こ つ て お び へ

ト り き ら **蝶** ア ー い ち い と 成 は ら ま ー た

モシ 六右衛門さん これは持あまさまーたから
 もごかりなからさーあげまふ言げさんちよ
 つとおとうつぎ城六イこいやくいもサ
 さいせんくらスミとすごーしてヨいなるから
 様 すんあらしさーはめ言げんさんのおあひけい
しや。たいと持へうり。ちようりーの持りの。ーげさま。まごつくお
 段をん飛孫ひる走ハ彩遠の年つとらよ。さもををつぶー。す
 後よ。知つとらようよ。けい馬の志のめりやをみハとめり。産者
 まで情をまさるに産者も産者とあひ産者へ
 出様

武ヤヤごもまださおいんーきくらぬーやアめん
 でおまへ。うちよの目々めんすのく様の
 るごんやア孫へ大めりさ。おめり大根の切ぎん
 ぼーとらつとてめりこーらつと。かたち
 ござ時とさはゆうめんのおり人ハトはをさ。是だ
 くら。ごふぞおねみごよ。あアやアま
 トな人ごうら。ごふぞはらアさーせ孫へ
 とうふーして。らんたまさ。そーしてまららのト

のめれいきうつても。あつちい知らべトがうら
はがすべつた武あんでなすくまうちやア
やくであつてんせんめんーたあート
常へまをさーこことありなまへちり
あろうどちりーやうん様もえのなまへちり
武 糸入 六 ちとち ちとち ちとち ちとち
つーいまいんうらどなくむさーたがなまへちり
をほれて振様むさー様 ちとち ちとち ちとち
がさーさへをりあがり 武 ちとち ちとち ちとち
武 是もあろうをいあら。ーこがあつてんせん

とおめいさんもうちつとをなーて居てお
くんなんー。今よーまーまつんすうら 武
マアそつやアめーこの事んたをさうよう
あう。のちねど 六 コおれく 振様コは 武
十、あまよつコさうでいけさうゾ、ぞんドてコ
あろうコ、あまハセ、セニキーラ 石カ次アさうでイいあこの
ごうウらまら、い、サマ ちとち 武 ちとち ちとち
みあんー ちりーもあーやといこち さようなら

ら。なよらうわうーくあまあうあら。あうーん
よーのー
とせおせ像子をあげて 三 三 ヲヤもいお
やすーあんとんくおいらんで。おつせんす
おまのぶくさんす。やくがわいん
て今くまうりをきぶて。おいらさーきいよ
まいんはうらぬーによくやせと云あん
ーてそーして。あすこで 祿 後ておつぐあんす
トのさど。さうてせつん 五 五 ウーウッ、そぶロ、らう
下云也入まさと

トあうく鳥を 一 一 ヲヤあーらあんよ トあひまぶら
あーくーく 二 二 ヲヤあーらあんよ あよりドを
たていつくともなくおあくははあうませりのよてらう
がどもを突とおひあぶさこはあうあうーあうあま
くさーかことあの人ども又あうーく 逆とう原の中よ 三 三
あーくーの折ら。とあう 音あま三人の出ー声
そ花あの子 女帝たより 今のいまくであんよもあまをーやい
せんが。あーあまあんで ニア まうちうがうら
なよりのでも あふ 婦とおつてあらんあんーて
ふよ 何うらあにまだ。あまあまうけて。と 活とー
てあらんあんにあまうくく死んても あれ

いせん。あうづごめをいぬ。ぬーのよーななあん
つなりのを妹いもとつぬあんよりのい
おんが。あうづらぐーやまを。あうづらのよふあ
めんがいを姉あねとあうづつとあらんあんに
ぬーいあーあはせとも思ひあんーようぐうぐ何なに
もらき世と。あさうらめてあらんあんー あ
ぬーいあう。夜よようぐつとあせそんあよふ不
そいりあおああんすくそーして。アアまをま

いあんすと云たのんーととつ 町まを事
おん。今までいあうくーやいーとあれどを。
是をどよまごぐ。あうづらのゆめをあうづてあ
くんたのんすぬーあ。あそふーやいす。よふ
くまいてあらんあんー。あうづらもえうり
うふうふまいやしひあでもあそんせんあれど
も。あつとーたるあうら をとまの春はるあ川へ
うらんんーて。ほいつさあごーのこまあうら

思ひをめぐらぬのいんぐま。二世とやくそく
しつた人ハ。ま幸の著せり。親をちが。や
うほくめんごふをうけめんし。あつらう
しまがらんめんめんあつごふぞうちら
おめはぐくこけ。みつぎやてあめん志
よおめはらいつとめのみまをうあめぬーた
つらうの業ーみと。まこーはぐのゆきいまで
おくらてあめんー。まゆよ。あつと。月夜

おさめんーこのも。おさうのめんおーめん
したあつ。ごんく。と。あめんをんーて人々
や彼をで。ごのほまうハ女のあんご。難
養をうりハいとつんちんが。それうらーてハ
ごふめんーたるや。ら。おとづまもまびあ
の返る人も人をねんで出て。めらいめんは
う一日く。と。あもんた。んすよふはあま
つちもはくぐ。思ひんにハ。あんのんらま

でいようけらきぐ仲ななるうためを思ふ
るよとままよましうあまえしまてままら
していあらくとぶらうんて勤いひや。
ほらぶさんのおまをしてかんあんす
のさめんごうでくままつてまらんか
アまいーさが目めさんのまあんはゆいあめも
そうまづらつちやアまもたならぬちら
とらをまいらりちなまめいんごんごんご

命いのちの者ものとちららて。えがちいさいららあつと
大おさくめらがつのさをしてとこごちらつと
出いるまにあんなまとなくまあんはゆい
さつちも若わや命へでもおてかんのんさん
へんがけでもいいきらぬいの病ひが
なまをんあんして又ままの叶はあまふ
らと後あへめアまんしたま付は目めさんの
のおいあんすまいあめもさけバ新あんごらづ

明さんみがそれわざとをよめて。おんあ
 すー着かまもつちつ入。まいりんーたあら
 ばぬーよをれてあはまんすともらつん
 ーあううと。ま日まぐに夜よへ来きんーたが。
 ニアどうせんーさるやう彼こは一本ひとあり
 んすぐ日ひ明あさんんの。とあふもよくあんく
 ーたあまのいさむちんちんもあつ
 たり使つかつたな。あんは死しまでもーあんー

たりあつちやア。ニアどうせんーようと思ひ
 んすつやア。いつそ死しんだらけらきめを
 あつんすゆへさむりひんひんにあなる
 ほい。そつちあんすつやア。おめさんおもあ
 くくちうをたなな。まあなな。ーつち
 もあ。いあめくであつあ又またあつたをあややくあ
 せんちんー。ちようやあつあーがすのあー
 おつろさんおいんいななトトああややああんんややつつかかー

ておらんあんすねーきち曲^{まが}若^{わか}も使^{つか}ふ
なつておらんきんきもあつらんーやうき
うちあけておらんーやあんす。うちが^{うち}国^{くに}
より一^{いち}里^りむらう。はあまておらんすおの^{おの}ん士^し
のむせ^{むせ}ご。あつらんーごううちとアノ^{アノ}言^ご
さんの^ごなづけのあらん^{らん}の^のを^を知^しあがら
うちをむせむせい^いの^のらあ^あうと^とな^なを^をん
すのを^をお^おう^うさん^{さん}が^が火^ひさ^さに^に後^{あと}を^をた^たち^ちあ^あん

してと^とま^まら^らに^にお^おい^いで^であ^あん^んー^ーた^たま^まら^らあ^あら^ら
は^は誰^{たれ}も^もあ^あら^らじ^じや^やみ^みく^くと^とむ^むら^らあ^あ死^し
あ^あん^んー^ーた^たま^ま時^{とき}は^はあ^あん^んー^ーよ^よう^うあ^あら^ら
ん^んー^ーて^て。あ^あら^らは^は死^しめ^めう^うい^いか^かく^くを^をば^ばさ^さあ^あ
て^て。あ^あらん^んー^ーご^ごう^うち^ちが^がけ^けら^ら死^しよ^よん^んー^ーた^た
ら^ら。あ^あら^らさん^{さん}も^もあ^あら^らじ^じか^かー^ーに^にあ^あん^んー^ーよ^よう^うと^と
あ^あら^らひ^ひん^んー^ーて^て。あ^あー^ーか^から^らぬ^ぬい^いの^のち^ちを^をあ^あら^らじ^じ
て^て。あ^あら^らじ^じう^うあ^あら^らん^んす^すあ^あら^らじ^じよ^よう^うと^とな^な

ばけの音^{かん}さんよか月^かよ。や^いア人^いた月^いは
 ー^いあ^いさ^い。あ^いら^いま^いア^いあ^いあ^い
 ー^いあ^いい^いた^いぐ^いい^いや^いあ^いの^いく
 ぶ。ぬ^いー^いあ^いー^いあ^いア^いー^いて^い大^い事^いの^いあ
 ー^いあ^いの^いり^いま^いへ^いが^いあ^いは^いら^いの^いく^いを^いの^い町^いぬ^いー^い
 も^いア^いま^いふ^いや^いう^い苦^い當^いは^いあ^いで^いお^いす^いう^いそ^いー^い
 て^いア^いま^いあ^いい^いと^いあ^いひ^いあ^いま^いて^いあ^いア^いん^いす^いえ^い
 参^いその^いみ^いで^いお^いす。お^いと^いら^いさん^い持^いれ^いあ^いん^いと^い

ー^いあ^いま^いら^いら^い士^いの^いむ^いも^いこ^いも。お^いア^いん^いや^いん^い也^いと^い
 ー^いた^いま^いも^いあ^いま^いい^いち^いん^いあ^いれ^いぢ^いも^いう^いこ^いぐ
 ー^いの^いは^いけ^いく^いむ^いう^いり^いあ^いは^いあ^いん^いも^いあ^いア^いん^いせん
 ー^いて^いア^いま^いあ^いて^いあ^いん^いあ^いん^いー^いい^いも^いさ^いさ^いよ^い
 ー^いら^いく^いい^いあ^いん^いす^いあ^いく^いさん^いの^いま^いう^いら^いー^いと^いハ^い
 月^いあ^いま^いー^い日^いあ^いは^いー^い食^いも^いキ^いあ^いん^いや^いぢ^いが^い
 ー^いう^いう^いー^いあ^いう^いさん^いす^いが^いわ^いー^いの^い田^い地^いを^いう^いア^い
 ー^いら^いあ^いー^いて^いも^いキ^いら^いぬ^い茶^い茶^い新^い。あ^いた^いう^いさん^い

よお後そうごえして。もうちが福ふくのけしとめ。おや
のこめ妹いひめのためと、おひんおひんどもええのおこりハ
みちよみちよここと、おひんおひんするやアア生なまれ
ぬ先まへづづおひひううををぬぬ 略 ぬをぬ ありおど。お
めめさんさんごごの。おおままーーああんんすすののををままん
して。ほほくくぐぐおおひひんんすするるやアアもううちちををど
ぞぞちちののああつつたたりりののああつつええんんままくくぐぐ
せせううささめめををんんすすののもも。ううままううくくととおおひひ

ああつつええんんすするるやアアおおめめさんさんぐぐここににもも。ああをを
づづううくくつつくく。ははああさされれいいせんせん 略 ううちちああ
ああてておおままーーああんんすするるいいぬぬーーももううちちああけ
てておおまませせををんん 略 かかああららげげおおままひひををんんす
ナナさんさんげげ又又罪つとももししももををややらら。かかんんににううちち
かかををかかーーかかんんせせうう。ぬぬーーききををちちのの孝こりりややああ
んんよよううううててかかままつつくく。ああののたたららををいいててああん
トトここがが。ううままいいんんすするるやアアよよくく。アアああうう生せい

ておつよーごうおーごうでねト又たをそおー
夢 おいもけかうで。おくーちんすりことち
あつもんせん。ほくまびをかしておませお
んー 略 おつーかんちう。すておらんあ
ーもうちのおとらさん。は。高きをーして
おつであんすおつ川。歩よおつんーをう。
もうちうてうごナ四のまき。品川へさあんー
て。茶ををわーちんーてう。ニヶ月をう

アおつんはうち。を所へ。垢をうらふよ。来て
いあんす。松さんと云々の白い目をかごら
のり。男であつんーごう。あつとーしてん。安
くさーいーして。まごぬーのんも。あまぬ。固
後汗のあうへ。おつて。集つもんーして。そこよ
もうち。十日をかり。うらひうち。年のいぬ
んうら。又。固が。息しく。おつて。来て。おつて
あんす。お加。青の。瓦を。おつて。うらうら

江戸へ遊ユウてくまクマんして。おおん雨あまよよららく
 おおん人ひとははらら又またトトおおりりななららくく席まくら下したををここく
 志しままししどどををわわららををががら
 様さま六むさんさんおおいいわわららどどちちああへへははめめんんををせせトト様さま子こ
をた
つておおモもちちつつととおおををおおーーちちりりんんーー様さまイいへへ
へでる
 へへおおいいととおおげげややめめららままいいららせせささ。今いまももららまま
 ととははななししととらら忠ちゆう告こくへへ遊ユウてて来きややししととららもも
 ううははままててくくつつててかかどどととははいいてて店い孫そんへへああららやや
 へへおおししややせんん。どどううもも女にハハワワががううハハははくくととけけがが
 二に十じう八はち

ここづづささトト火かががちちののささままららううユユウウててめめととつつややウウか
をををししををととつつてて
 ををははけけてて店いののどど様さまととここへへトトああららままへへををおおけけがが
そううははままららトト
 様さまととつつままいいああららめめららーーいいうう不ふううずずよよああららるる鬼おにううトト
をん様さまががははいいよよここままくく知しひひははああらら
あつつままいいももああららるるををおおけけてて様さまモモウウ志しままららううににららん
 ももつつくくららああんんよよななんんーーててりりつつてておお休やすみいいああんんーー
 今いまううーーささよよめめへへままんんすすかからら様さまソソリリヤヤののううああいい
 おおいいくくめめんんををううんんぐぐららハハササいいままくくハハ思しひひややらら
 ままささいいりりんんどどぞぞ。ややううああんんなな志しままああんんよよああいい

だされろのござらううつくをいをたのよ
どはみくららひにぞぞ。すんありまらち
もりて。移んーよりサアおつでたんー隣ま
へびらおーまよ迷ひるやアイまよくまよのそこまよとく
く

夜の情言

来いあんくとまよ文まよにまよ溜まよも下まよまーづ
ありて。いびさのわうままよとしてハはるべのみ

ろカシくとまよ花まよよまよくまよ朝まよのまよ水まよぬまよのまよあまよよう
くまよとまよてまよおまよあまよれまよあまよるまよままよ中まよよまよ身まよはまよ
花まよがまよ座まよあまよのまよようまよにまよ責まよおまよくまよままよりまよーまよめまよのまよ
あまよすまよのまよ声まよさまよるまよこまよとまよ
うまよさまよ中まよれまよたまよのまよいまよとまよあまよらまよばまよわまよくまよとまよら
うまよ。花まよよまよあまよぶまよのまよらまよらまよさまよいまよとまよたまよらまよも。
ままよいまよめまよのまよあまよさまよけまよ今まよ乃まよあまよるまよま
おまよすまよままよーまよままよをまよいまよはまよ浮まよ世まよをまよらまよらまよむ

ふくら。今うちつる舞町の^てふに^{らん}お茶
を^あとり^おどー^町のまの^ハき^ーく。い^やく^ら
のま^らい^{くら}ト^おで^らう
あ^がて

♪と^いひ^のワ^キハ^海と^いふ^のま^らい^を
と^いひ^のま^らい^を
と^いひ^のま^らい^を
と^いひ^のま^らい^を

と^いひ^のま^らい^を

と^いひ^のま^らい^を

あ^んば^ら

あ^んば^ら

あ^んば^ら

あ^んば^ら

いつ^そあ^んば^らは^いく^らと^いふ^もあ^ん
は^あら^まい^よと^いふ^もあ^んば^らは^いく^らと^いふ^も

あ^んば^らは^いく^らと^いふ^もあ^んば^らは^いく^らと^いふ^も
あ^んば^らは^いく^らと^いふ^もあ^んば^らは^いく^らと^いふ^も
あ^んば^らは^いく^らと^いふ^もあ^んば^らは^いく^らと^いふ^も

あはれ

あはれなるべし

あはれ

あはれなるべし一月日此あはれなるべし

あはれの涙なるべし。いとしきあはれなる

のあはれなるべし

あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。

あはれ

あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。

あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。

あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。

あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。

あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。

あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。

あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。あはれなるべし。

かんくまけのつるる。後のちはせらりてとまふ。
 していままふそれまふまで。い。う。あ。ら。ず。と。ま。ふ。よ。町
 さ。と。ら。れ。ぬ。よ。う。に。一。ろ。と。云。な。ん。す。の。う。く。
 ろ。ち。も。ん。し。も。ま。一。ろ。ぬ。一。の。お。ま。と。ま。ひ。
 ん。一。た。が。も。も。ち。の。ま。よ。ひ。う。ら。ぬ。一。の。お。声。と
 ず。へ。ん。一。こ。の。で。あ。つ。ま。う。い。お。ひ。ち。な。お。一。と
 ことた今うトおちう。帝トをう。い。ま。う。 六 すすんあら
 のちよ町トおす。ま。ら。う。こ。う。 う。ま。し。一。う。ひ。ざ。ん。すトおし。も。ま。ら。む。

二二二

さ。い。せ。ん。は。よ。 **五** ヲ。ヤ。あ。げ。お。休。と。あ。ん。せん。ト。床。の上
を。あ。け。て。 ぬ。一。ヤ。ア。さ。ぞ。お。後。が。こ。ち。た。の。ん。一。や。う。か。ん
 小ん。ち。の。ん。一。ま。に。あ。や。く。が。お。う。ん。一。と
 真。よ。く。う。一。う。あ。つ。一。た。う。ら。は。い。な。う。ま。で
ト。は。ら。サ。ア。 お。や。す。こ。あ。ん。一。な。 **六** う。を。お。も
 お。め。い。が。そ。ま。ま。な。さ。ま。や。ア。う。む。じ。お。の。
 ぶ。ま。う。一。の。う。夜。が。あ。も。ら。る。ま。う。だ。は。あ。ん
 が。あ。つ。こ。ら。又。う。な。孫。と。と。の。あ。の。ん。ぐ。い。そ。れ

だぐらりきやくぐあるあら^ら福^らで。ゆるりと
 おに^らこも。標^らと毛^らつてに^らあせ^らト床^らのよに
のこもむりを
まはせてる 武ソウか^らい^らあ^らん^らす^らあ^らら^らあ^らん^らと^ら
 よ^らあ^らん^らー^らと^らう^らぐ^らぬ^らー^らハ^らア^らな^らせ^らら^らち^ら哉^ら
 お^らご^らま^らー^らあ^らん^らー^らた^ら 六 ^らあ^らら^らく^ら福^らて^らあ^らめ^らの^らゆ^ら
 を^らあ^らて^ら。と^らう^らら^らあ^らら^らく^らと^らあ^らつ^らて^らい^らが^ら
 あ^らよ^らあ^らん^ら。あ^らめ^らの^ら所^らへ^らと^らげ^らて^らあ^らら^られ^らる^ら
 よ^らう^らな^ら。と^らう^らち^らで^らも^らあ^らら^らあ^らめ^らも^ら又^らま^らら

ち^らが^らよ^らう^らあ^ら。あ^らら^らく^らい^られ^らを^らよ^らあ^らら^らあ^らら^ら
 め^ら。と^らう^らす^らあ^らア^らい^らく^らら^らあ^らら^らつ^らて^らも^らあ^らら^ら
 ー^らと^らあ^らも^ら福^らの^らさ^ら。と^らう^らー^らと^らあ^らめ^らい^らま^ら
 け^らの^らあ^らん^らら^らと^らと^らと^らあ^られ^らる^ら。あ^らア^らア^らよ^らく^ら
 け^らら^らつ^らて^らも^らあ^らら^らあ^らら^らい^らの^ら者^らハ^らあ^らら^らい^らよ^ら
 け^らく^らあ^らら^らい^らん^らて^らあ^らら^ら。と^らう^らち^ら福^らり^ら
 福^らも^らあ^らい^らで^らあ^らら^らの^らよ^ら。あ^らん^らま^らあ^らら^ら福^らと^らあ^ら
 云^らら^らん^らで^らら^らー^らい^らあ^らい^らで^らら^らん^らあ^らら^ら福^らを^ら

して若^{わか}このサをれ^れと云^いも。あめ^{あめ}のさ^さわれ
が^が。若^{わか}くつてあら^ら孫^{まご}（由^{よし}）さ^さト^トあつ^{あつ}は
ま^まあ^あと^とあ^あん^んす^すぬ^ぬや^や
ま^まあ^あと^とあ^あん^んす^すぬ^ぬや^や
ま^まあ^あと^とあ^あん^んす^すぬ^ぬや^や
ら^らあ^あい^いそ^そう^うが^がは^はさん^{さん}—この^{この}え^えま^まら^らち^ちが^がこ
ろ^ろい^いる^るが^があ^あい^いす^すあ^あら^らい^いく^く重^{おも}よ^よも^もあ^あや^やあ^あら^ら
い^いす^すう^うら^らと^とぶ^ぶど^どう^うん^んよ^よち^ちの^のん^ん—と^とア^アが^がの^の
ら^らち^ちの^の体^{てい}も^もち^ちの^のん^ん—ナ^ナの^のん^んよ^よぬ^ぬ—が^がん^んう^うあ^あら^ら

こ^こひ^ひあ^あん^ん—この^{この}を^をあ^あめ^めて^てあ^あつ^つえ^えん^ん—
て^て。い^いら^らよ^よト^トた^たを^を云^いく^くよ^よて^てあ^あつ^つの^の
ち^ちり^りを^をあ^あら^らう^うて^てい^いら^らぬ^ぬ。六^六さ^さら^らが^が
ま^まこ^こと^とり^りか^かさ^さら^らの^のう^う。あ^あら^らは^はあ^あつ^つち^ちら^らア
あ^あめ^めく^くき^きち^ちの^のあ^あま^まよ^よや^やア^アあ^あと^と孫^{まご}の^のサ
六^六さ^さら^らよ^よと^とあ^あま^まと^とら^らう^うて^てよ^よく^く人^{ひと}
ま^まこ^こま^まら^らせ^せあ^あん^んす^すト^トあ^あら^らう^うあ^あつ^つと^と
あ^あら^らう^う人^{ひと}の^のあ^あま^ませ^せ。え^えん^んあ^あら^らう^うの^のい^い
ぬ^ぬ—や^やア^アあ^あら^らう^うの^のあ^あつ^つと^とえ^えん^ん—ち^ちら^らや^やア^アま

ろうおすく^六まうちもぐらハ指^ハく
 のさき^六けれさ^六や^六あ^六り^六や^六さ^六よう
 よ^六そ^六して^六又^六け^六は^六さ^六や^六ー^六ま^六う^六あ^六れて
 指^ハのも^六あ^六ん^六ま^六る^六知^六あ^六が^六指^ハく^六武^六ぬ^六や^六ア
 あ^六ま^六わ^六ど^六よ^六ち^六い^六て^六も^六ま^六ぐ^六あ^六う^六さ^六い
 あ^六ん^六す^六く^六ト用^ハま^六の^六判^六カ^六ら^六い^六お^六ー^六枕^六ま^六わ^六て^六く^六お^六い
お^六う^六い^六い^六こ^六さ^六を^六ま^六ら^六す^六武^六ま^六は^六き^六み^六て
 お^六す^六^六ま^六め^六く^六が^六そ^六う^六ゆ^六ふ^六ん^六あ^六ら^六う^六こ^六が^六り
 ま^六れ^六さ^六武^六マ^六ま^六を^六ま^六う^六て^六お^六い^六く^六あ^六ん

三十五ノ三十八

あ^六ん^六ー^六^六六^六す^六ん^六な^六ら^六は^六ま^六う^六つ^六て^六お^六う^六ト^六血
そ^六ま^六り^六く^六ら^六こ^六う^六武^六を^六ま^六よ^六ま^六あ^六げ^六て^六ぬ^六と^六こ^六う^六へ^六る^六や^六う^六ま^六て
 ま^六ら^六う^六の^六川^六お^六ー^六へ^六そ^六つ^六と^六い^六れ^六る^六を^六あ^六ら^六う^六ず
^六武^六そ^六れ^六で^六ま^六う^六ち^六も^六お^六ち^六つ^六さ^六い^六ー^六さ^六ぬ^六ー^六ハ
 マ^六や^六こ^六ぐ^六お^六ま^六く^六さ^六う^六ぞ^六お^六ま^六せ^六あ^六ん^六ー^六^六武^六
 て^六め^六く^六ま^六こ^六を^六ま^六て^六あ^六ん^六ま^六す^六ら^六の^六武^六
 の^六ー^六や^六ぬ^六ー^六が^六ら^六ま^六ら^六う^六て^六お^六い^六で^六あ^六ん^六せ^六ん
 ぬ^六さ^六い^六せ^六い^六人^六を^六あ^六げ^六や^六い^六す^六マ^六す^六ら^六つ^六て
 い^六た^六ん^六せ^六ん^六と^六よ^六こ^六ま^六あ^六ん^六た^六の^六ん^六ー^六か^六^六武^六

あらい
あらいよあめをたもうぶがうかあんようい
てあいらんあやく 哉 ちよせてあすく
まのちがいのたひーきく 六 そふお
あれどもおららがむとりで来りあ
ぶやアあらしー。言ごの蝶ごろうとふ
しつうりさーた。なぶこけてあいがあ
うら らと 味でさうあひ 哉 しくそれや
アちりつと。いさらんごまけがなつーてけ

ごら こま 花 うら さんとああんまり。ん安く
せんくうらごふもあまよろ 哉 六 哉
アアまごあんのあつこ い 男おら
ごらごらじりよあまあひやうが移くが。
またさう移く 哉 アあさ い 移く
おもーらく移く 哉 あんま い りあ い ま
ていよう 哉 りさ い ち い ちやア

ぬしぬいなるんあまかうくーちりせんは
あーちりんせう。きうきりちりつとぬー
あまお祿ぐいがかんかあつてらんを
んすうん^五そアヤアおめくが^六おーそら
祿ぐいもうかりてちりまいのでもま
いぐまアそアヤアあんぐ^七アアアと
ちりちりおらんあんなあせいなるん
まーい^八帯をさるあんなけいよま

あうおらんあんー^一アアぬー
の手にあ^二花弁をさあぞ^三ト云いぬ
おんては^四あまの^五おん^六そら^七あまの^八おん^九そら^十あまの^{十一}おん^{十二}そら^{十三}あまの^{十四}おん^{十五}そら^{十六}あまの^{十七}おん^{十八}そら^{十九}あまの^{二十}おん^{二十一}そら^{二十二}あまの^{二十三}おん^{二十四}そら^{二十五}あまの^{二十六}おん^{二十七}そら^{二十八}あまの^{二十九}おん^{三十}そら^{三十一}あまの^{三十二}おん^{三十三}そら^{三十四}あまの^{三十五}おん^{三十六}そら^{三十七}あまの^{三十八}おん^{三十九}そら^{四十}あまの^{四十一}おん^{四十二}そら^{四十三}あまの^{四十四}おん^{四十五}そら^{四十六}あまの^{四十七}おん^{四十八}そら^{四十九}あまの^{五十}おん^{五十一}そら^{五十二}あまの^{五十三}おん^{五十四}そら^{五十五}あまの^{五十六}おん^{五十七}そら^{五十八}あまの^{五十九}おん^{六十}そら^{六十一}あまの^{六十二}おん^{六十三}そら^{六十四}あまの^{六十五}おん^{六十六}そら^{六十七}あまの^{六十八}おん^{六十九}そら^{七十}あまの^{七十一}おん^{七十二}そら^{七十三}あまの^{七十四}おん^{七十五}そら^{七十六}あまの^{七十七}おん^{七十八}そら^{七十九}あまの^{八十}おん^{八十一}そら^{八十二}あまの^{八十三}おん^{八十四}そら^{八十五}あまの^{八十六}おん^{八十七}そら^{八十八}あまの^{八十九}おん^{九十}そら^{九十一}あまの^{九十二}おん^{九十三}そら^{九十四}あまの^{九十五}おん^{九十六}そら^{九十七}あまの^{九十八}おん^{九十九}そら^{一百}あまの^{一百一}おん^{一百二}そら^{一百三}あまの^{一百四}おん^{一百五}そら^{一百六}あまの^{一百七}おん^{一百八}そら^{一百九}あまの^{一百十}おん^{一百一十}そら^{一百一十一}あまの^{一百一十二}おん^{一百一十三}そら^{一百一十四}あまの^{一百一十五}おん^{一百一十六}そら^{一百一十七}あまの^{一百一十八}おん^{一百一十九}そら^{一百二十}あまの^{一百二十一}おん^{一百二十二}そら^{一百二十三}あまの^{一百二十四}おん^{一百二十五}そら^{一百二十六}あまの^{一百二十七}おん^{一百二十八}そら^{一百二十九}あまの^{一百三十}おん^{一百三十一}そら^{一百三十二}あまの^{一百三十三}おん^{一百三十四}そら^{一百三十五}あまの^{一百三十六}おん^{一百三十七}そら^{一百三十八}あまの^{一百三十九}おん^{一百四十}そら^{一百四十一}あまの^{一百四十二}おん^{一百四十三}そら^{一百四十四}あまの^{一百四十五}おん^{一百四十六}そら^{一百四十七}あまの^{一百四十八}おん^{一百四十九}そら^{一百五十}あまの^{一百五十一}おん^{一百五十二}そら^{一百五十三}あまの^{一百五十四}おん^{一百五十五}そら^{一百五十六}あまの^{一百五十七}おん^{一百五十八}そら^{一百五十九}あまの^{一百六十}おん^{一百六十一}そら^{一百六十二}あまの^{一百六十三}おん^{一百六十四}そら^{一百六十五}あまの^{一百六十六}おん^{一百六十七}そら^{一百六十八}あまの^{一百六十九}おん^{一百七十}そら^{一百七十一}あまの^{一百七十二}おん^{一百七十三}そら^{一百七十四}あまの^{一百七十五}おん^{一百七十六}そら^{一百七十七}あまの^{一百七十八}おん^{一百七十九}そら^{一百八十}あまの^{一百八十一}おん^{一百八十二}そら^{一百八十三}あまの^{一百八十四}おん^{一百八十五}そら^{一百八十六}あまの^{一百八十七}おん^{一百八十八}そら^{一百八十九}あまの^{一百九十}おん^{一百九十一}そら^{一百九十二}あまの^{一百九十三}おん^{一百九十四}そら^{一百九十五}あまの^{一百九十六}おん^{一百九十七}そら^{一百九十八}あまの^{一百九十九}おん^{二百}そら

まつちがそわどまぐえあひすたぬ
しはぢやすいでうさぐんあんすのく
六 ちよア又てめくむらたらのあやア極ら
りあ夜もわけをうご今よらんまら
あうごうう又うごま路よこよよ
七 づうううあひあんーてもあうーま
するああさん言さんううアうちが
うようになあんすうら。あひせいむ

ア

ワであんーておらんたんせんあアア
たつらんせん。侍きよまづれて今夜ハ
さじうをひアレサまアあうあん
し。ああんーあうをわらあひと
くく **他** 是うらさ記をまづんハ
べうす あはをのんでまうらあれ
きもはハ何のわともかーあーも **蝶** サア
六さんごうごあううくまううせ言さん
ハあへら福入と **六** さアアアアア

とあり彦後まで
 花町がたぬいさ
 石ッ
 ちあさこよハ他
 がはハ香こじおと
 くらびつと

跡
 一美所と六
 ちらん花音う歌
 者となのら
 来れ
 色遊びの
 節が
 ちらん
 氏
 ちらん
 ちらん

葉むうりあがうま
 出と

梅松亭

庭
 誓
 干



結
 中

跋

北園樓の魂膽小

冊数多遠心此

中く云信事と

お笑しいをうり見申

さ由何と申さる

物々多し信此

人志願と顔成ふく

しと其の席アハをへん

りの佛ニらわー

しと其の席



